

【分野】 果 樹

気候変動下における黒系ブドウの着色向上対策

【要約】

黒系ブドウの着色不良の原因究明とその対策技術を開発しています。

【背景】

近年、「ピオーネ」などの黒系ブドウの着色不良（図1左）が顕在化しています。着色不良の原因として、高温などの気象要因や大房化による過度な着果などの栽培管理上の問題が考えられます。そこで、「ピオーネ」や「オーロラブラック」の着色不良の原因究明と対策技術の開発に取り組んでいます。



図1 着色が不良な果房(左)と良好な果房(右)

【結果】

1 着色不良に関係する気象要因、栽培管理

着色期に当たる7月中旬から8月中旬までの気温と着色の関係を解析したところ、近年、7月下旬の最低気温が上昇傾向にあり、それに伴う着色不良の傾向が認められました（図2）。

また、1樹当たりの収量が同等でも、果房数が少なく果房が大きいほど着色が劣る傾向が認められました。

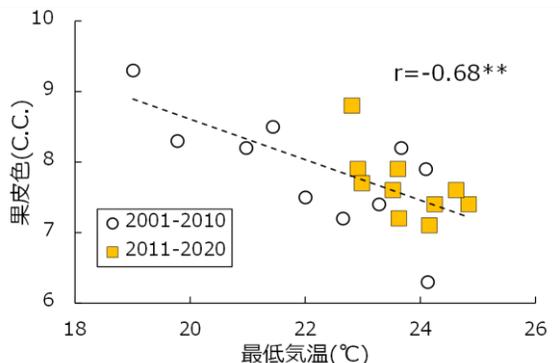


図2 「ピオーネ」の果皮色と7月下旬の最低気温との関係(赤磐市)

2 「オーロラブラック」の果皮色とホルモン処理法との関係

無核肥大処理で用いる植物生育調節剤（ホルモン処理剤）の種類や処理回数を検討したところ、1回処理は2回処理より着色が優れる傾向が認められました。また、2回処理では2回目にフルメットを用いた方が着色が優れる傾向が認められました（図3）。

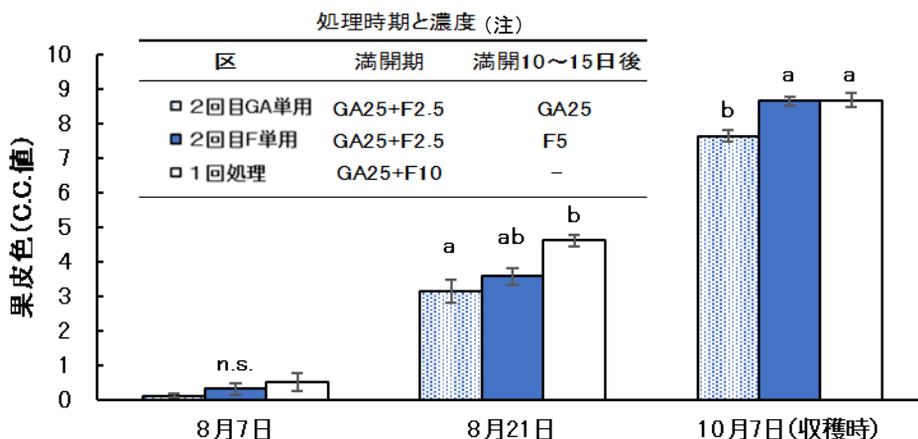


図3 ホルモン処理の違いと「オーロラブラック」の果皮色(真庭市蒜山)
注)表中のGAはジベレリン、Fはフルメットで濃度はppm

担当：農業研究所 果樹研究室(086-955-0276)、高冷地研究室(0867-66-2043)

研究課題名：「オーロラブラック」のブランド力強化を目指したプレミアム果実生産技術の確立 (H29~R1)
「ピオーネ」及び「オーロラブラック」の着色安定化技術の開発 (R2~R4)